

オブジェクト指向プログラミング実験

小嶋一生，吉岡昌雄

先端情報グループ

1 はじめに

本実験は情報電気電子工学科3年次の必修科目として行われている。オブジェクト指向ではJavaを用いて、設計と実装を行う実験であり、ソフトウェア技術の理解を深める。本実験の支援を電気情報技術系の技術職員が行ったのでここに報告する。

2 内容

木曜3・4限に開講されておりオブジェクト指向プログラミングが行われる。プログラミング言語はJavaを用いる。実験中は、学生の質問に対応した。オブジェクト指向プログラミングでは課題の内容を見直し、進捗表による班ごとのスケジュール管理を行った。また実験の出席管理システムを構築しており、授業開始前、終了後に学生がメールを送信することで、出席一覧をWEB-SITEで確認できるようにしている。あわせて本システムを利用して、着席している場所も特定する事が可能である。また、実験用のWEB-SITEをMoodleで構築しており実験に必要な資料や課題提出に用いた。

3 まとめ

スケジュール表による進捗管理を用いた事で学生の状況を把握しやすくなった。また、班ごとに課題をクリアするスタイルで実施したので、班員でディスカッションするように指導を行った。

また、実験の補足資料や課題提出はMoodleを用いた手法とし、紙によるレポートを合わせて提出する。Moodleを用いる事で、提出状況の確認や期限の設定など管理がしやすくなった。